

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

【仮称】タテロ様倉庫【倉庫棟】

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.6	
Q1 室内環境					0.30		-	3.5	
1 音環境				1.0	0.38		-	1.0	
1.1 室内騒音レベル				-	-		-		
1.2 遮音				-	-		-		
1 開口部遮音性能				-	-		-		
2 界壁遮音性能				-	-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-		
1.3 吸音				1.0	1.00		-		
2 温熱環境				-	-		-		
2.1 室温制御				-	-		-		
1 室温				-	-		-		
2 外皮性能				-	-		-		
3 ゾーン別制御性				-	-		-		
2.2 湿度制御				-	-		-		
2.3 空調方式				-	-		-		
3 光・視環境				-	-		-		
3.1 昼光利用				-	-		-		
1 昼光率				-	-		-		
2 方位別開口				-	-		-		
3 昼光利用設備				-	-		-		
3.2 グレア対策				-	-		-		
1 昼光制御				-	-		-		
3.3 照度				-	-		-		
3.4 照明制御				-	-		-		
4 空気質環境				5.0	0.63		-	5.0	
4.1 発生源対策				5.0	1.00		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の内装建材を使用した。		5.0	1.00		-		
4.2 換気				-	-		-		
1 換気量				-	-		-		
2 自然換気性能				-	-		-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-		-		
4.3 運用管理				-	-		-		
1 CO ₂ の監視				-	-		-		
2 喫煙の制御				-	-		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.4	
1 機能性				1.7	0.40		-	1.7	
1.1 機能性・使いやすさ				-	-		-		
1 広さ・収納性				-	-		-		
2 高度情報通信設備対応				-	-		-		
3 バリアフリー計画				-	-		-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.50		-		
1 広さ感・景観				-	-		-		
2 リフレッシュスペース				-	-		-		
3 内装計画				1.0	1.00		-		
1.3 維持管理				2.5	0.50		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30		-	2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.7	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				-	-		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.25		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.13		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.13		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.25		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.25		-		
2.4 信頼性				2.4	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-		

3	対応性・更新性		3.0	0.30	-	3.0
	3.1 空間のゆとり		3.0	0.43	-	
	1 階高のゆとり	-	-	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	1.00	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	-	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.57	-	
	1 空調配管の更新性	-	-	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	-	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	1.00	-	
	4 通信配線の更新性	-	-	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	-	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	-	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		1.0	0.30	-	1.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	1.0	0.50	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	1.0	0.50	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	2.6
LR1	エネルギー		-	0.40	-	3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	対象外	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用	太陽光パネルを倉庫兼事務所棟に設置する。	-	-	-	-
3	設備システムの高効率化	対象外	-	-	-	-
	集合住宅以外の評価	-	-	-	-	
	集合住宅の評価	-	-	-	-	
4	効率的運用		3.0	1.00	-	3.0
	集合住宅以外の評価	-	3.0	1.00	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	
	集合住宅の評価	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	2.6
1	水資源保護		3.0	0.20	-	3.0
	1.1 節水	-	3.0	0.40	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.5	0.60	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.22	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		2.5	0.20	-	2.5
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避	-	2.3	0.70	-	
	1 消火剤	-	2.0	0.33	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	2.0	0.33	-	
	3 冷媒	CO2冷媒冷凍機	3.0	0.33	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	2.2
1	地球温暖化への配慮	-	-	-	-	-
2	地域環境への配慮		2.8	0.50	-	2.8
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していません。	5.0	0.25	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	2.2	0.25	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	
	3 交通負荷抑制	-	2.0	0.25	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮		1.6	0.50	-	1.6
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	
	1 騒音	-	-	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		1.6	0.67	-	
	1 風害の抑制	-	1.0	0.70	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	0.30	-	
	3 日照障害の抑制	-	1.6	0.33	-	
	3.3 光害の抑制		1.0	0.70	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	-	3.0	0.30	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	-	-	-	

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅の評価

LR2 資源・マテリアル

2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K)窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -

昼光率1.5%

自然換気有効開口面積率3.3%

執務スペース6.0㎡/人病床8.0㎡/床シングル15.0㎡ ツイン22.0㎡

コンセント容量30.0 VA/㎡

天井高2.5 m

リフレッシュスペース0.5%レストスペース2.0%

想定耐用年数25 年

想定必要間隔20 年

想定必要間隔0 年

想定必要間隔0 年

階高3.2 m

壁長さ比率20.0%

床荷重 - N/㎡2

外構緑化指数34%建物緑化指数5%

空地率20%水平投影面積率5%地表面対策面積率7%舗装面積率3%

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級等級4 相当

自然エネルギー直接利用量20448.2 MJ/年㎡採光を満たす教室数80.0%採光を満たす住戸数80.0%

通風を満たす教室数80.0%通風を満たす住戸数80.0%

太陽光.0kW太陽熱等.0kW蓄電池.0kW

BEI/BEI_m再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 -

一次エネルギー削減率再エネ有無100%

雨水利用率0.0%

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

使用比率5.0%

オゾン層破壊係数(ODP)地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP)0地球温暖化係数(GWP)1430

オゾン層破壊係数(ODP)0地球温暖化係数(GWP)8

見付面積比44%隣棟間隔指標R_w 0.40

地表面対策面積率14.0%屋根面対策面積率6.0%外壁面対策面積率1.0%

見付面積S_b40,000㎡卓越風向と直交する最大敷地幅W_s200 m基準高さH_b450 m

緑地430㎡水面㎡保水性対策面300㎡高反射対策面200㎡再帰性反射対策面300㎡